

## 恐ろしい予言の自己成就 - 2000年問題と石油危機

「2000年問題」が何かと話題になっていますが、奥野卓司教授（関西学院大学・情報人類学）のユニークな記事がありましたので、その要旨をご紹介します。

子供のアニメに「Y2K」との専門用語が使われるほど「2000年問題」がよく知られるようになってきた。それでも、多くの日本人はこの問題が自分の生活に関係なく済むだろうと思いつている。パソコンを使っている人も、2、3年以内に購入した製品なので、とくに対策が必要ないと思いつている。

だが、本当にこのままやり過ごすことが出来るだろうか。私は楽観していない。それはコンピュータ・システムの障害という技術的な問題でなく、恐れているのは社会的な混乱だ。

おそらく年末までに、あなたの周りの誰かが食料品や水の買いだめの話をするだろう。そして、知り合いの誰かは実際に、いつもより多くの年越し資金をATMより引き出すだろう。

では、一応自分でもと思いつ出し、スーパーへ行ってみると、缶詰やミネラルウォーターが少なくなっている。ひょっとすると大量買い占めしようとしている隣の奥さんに出会うかもしれない。そのことを会社で、早く買っておかないと無くなりそうだと同僚に忠告する。

こうなると街のスーパーの商品は極端に減っていく。銀行のATMの前に人が並び始める。

そして、うわさは人々の口から口へ伝わって

いくだろう。いろんなところで「通帳の数字」「断水」「食糧危機」そして「ミサイルの誤発射」や「中東の石油が止まる」という物騒な言葉が人々の口の上になる。

こうなると事態は急速に「本当」になっていってしまう。世界のコンピュータに大きな誤作動がおきなくても、そこから自分を守るようにする人々の行動がかえって「2000年問題」を引き起こしてしまう。これが社会学でいう「予言の自己成就」だ。

この「予言の自己成就」は、15年以上前の「石油危機」の悪夢を思い起こさせる。あのパニックが再び日本を襲うおそれが近づいている。だが「石油危機」の教訓が教えてくれるように、「予言の自己成就」には、対策情報の積極的な公開で対応していく必要がある。

すでに企業や国家は自分の管轄するコンピュータに誤作動が起こらないように対策をとっている。だが目に見えないマイクロチップなどすべてを完全に掌握出来るわけがない。その情報をすみやかに公開して、私たちはいたずらに過剰反応せず、冷静な対応をしなければならない。

- 「省エネルギー」1999年8月号より -

## 簡易な装置で給水ポンプの圧力一定制御に成功！

ある福祉施設で給水ポンプを圧力タンクに取り付けた圧力スイッチでON-OFF制御をされていましたが、頻りに断続運転するためポンプや電磁開閉器の故障がよく発生していました。

何か良い対策はないかと相談されたので、インバータとアナログ信号出力付き圧力スイッチを組み合わせて圧力一定ポンプ制御システムを考案しました。

利点は、圧力タンクが不要。ポンプや配管に衝撃を与えるウォーターハンマー現象がない。必要最小限度の任意な水圧に調整でき、頻りに起動ロスもなくなり省エネが図れる。消耗部品が少なく長寿命。などです。

ちなみに、ポンプとインバータの相性が良いため。最近の給水ポンプ装置はインバータ駆動が主流になっています。



## (有)西村織布工場様が 滋賀環境ビジネスメッセ'99に出展される！

新旭町藁園の(有)西村織布工場様は、かねてより立体織物による河川水質浄化装置や室内装飾品などの新製品開発に取り組んでおられますが、さる9月に長浜市の長浜ドームで開催された滋賀環境ビジネスメッセ'99に出展されました。



### 今年の主な仕事

- 1月 新旭電子工業(株)様 印刷ライン増設に伴う高低圧電源設備の設計。
  - 2月 特養老人ホームやまゆりの里様 給湯省エネ対策・遠隔操作システム。
  - 4月 (株)ヤマダ様 米糠積込プラント制御盤改良。
  - 6月 社会福祉法人ゆたか会様 給水ポンプ圧力一定制御システム。  
特養老人ホームふじの里様 デマンドコントロールシステム
  - 9月 特養老人ホーム清風荘様 生成水タンク液面制御システム。
  - 11月 安曇川町農協本所様 デマンドコントロールシステム。  
(有)白浜荘様 デマンドコントロールシステム。  
三ツ星コード(株)様 デマンドコントロールシステム。  
身障者療護施設清湖園様 デマンドコントロールシステム。
- 小規模事業所向けデマンドコントロールシステムは、関西電力や工事店にご協力をいただいて、5年間のリース料が安くなった電気料金の20~40%ですみ好評です。

- 編集後記 -

8月にお付き合いのあった織物会社が倒産しました。社長夫妻で毎日深夜まで操業され、機械の改良などにも真剣に取り組んでおられたのに60歳を過ぎたご夫妻を自己破産に追い込んだ時代の流れは残酷です。また、今年は開業当時より仕事をさせていただいた製造業2社が廃業されました。一方の社長は「いままで下請けで沢山の物を作ってきたが、これからは物を始末するリサイクルの仕事で活路を見いだしたい。」との弁でした。

ある町工場の方が携帯電話の充電器の待機電力をカットできる試作品を完成させた、という新聞記事が載りました。充電器は、充電が完了してもコンセントを抜かない限りごくわずかの電力を消費しています。フル充電の電力でも数Wですので、省エネ効果は0.1W単位のごく小さいモノと思われれます。

しかし、携帯電話が数千万台普及しているこ

とを考えると、この発明はかなりの効果があります。わずかなことでも日本全国で考えると膨大な効果をもたらすことに着目された発明家の発想には感心させられます。

東京で暮らす患息が自転車で乗っていて交通事故に遭いました。頭を打ったようですが幸い短期間の入院で済みました。

看病に行った妻が病院で親切に対応してもらったり、息子のボランティア仲間が仕事を休んで病院に付いて行ってくれたことなどを聞き、お世話になった皆様に感謝すると共に「都会の人は冷たい。」というイメージを改めました。地縁・血縁に頼らない彼らこそ仲間や周りの人を大切にして生活していることに気づきました。

逆に田舎暮らしの長い我が身を振り返りますと、忙しさにかまけて通り一遍の付き合いで済ませて生活しているのではないかと反省させられます。

